

I 景観形成に係る施策の体系

より魅力的な都市景観を実現していくための施策の体系は次のとおりです。

基本の方針	景観形成の施策
1 まとまりのある市街地景観の創造	<ul style="list-style-type: none"> (1) 天童温泉から鍬ノ町・舞鶴山までを一体的かつ総合的に整備します。 (2) JR天童駅から天童温泉までの散策ルートを整備します。 (3) 旧国道沿いを羽州街道のイメージに演出します。 (4) 幹線道路沿いに特徴ある景観を演出します。 (5) 周辺環境にふさわしい建築物等の景観を形成します。
2 眺望景観の確保	<ul style="list-style-type: none"> (1) 主要視点場から月山への眺望を確保します。 (2) 湯上山の眺望軸を確保します。 (3) 舞鶴山の眺望軸を確保します。 (4) 田園の景観を保全します。
3 水と緑あふれる街並みの創造	<ul style="list-style-type: none"> (1) 倉津川の親水空間を整備します。 (2) 出羽の三森を整備・保全します。 (3) 街並みの緑化を推進します。 (4) 保存樹を指定し保存します。 (5) 原崎沼を保全します。 (6) 天童高原の自然景観を保全します。
4 歴史的集落景観の演出	<ul style="list-style-type: none"> (1) 高掬と蔵増地区の景観は「城下町」として演出・保全します。 (2) 寺津地区の景観は「船場町」として演出し、回復を図ります。 (3) 若松地区の景観は「若松寺の門前町」として演出・保全します。 (4) その他の地域は、その集落の持つ地域文化をいかした景観を演出・保全します。
5 歴史的文化的景観ネットワークの確立	<ul style="list-style-type: none"> (1) 観光ルートを整備します。 (2) 分かりやすい案内サイン及び説明表示サインの整備を進めます。 (3) 歩いて楽しい歴史的文化的景観ゾーンを演出・整備します。

Ⅱ 景観形成に係る施策の展開

1 まとまりのある市街地景観の創造

1 天童温泉から楸ノ町・舞鶴山までの一体的かつ総合的な整備

<現状と課題>

天童温泉は、街中の都市型温泉ですが、周辺には出羽の三森を始め、自然、歴史、文化面での観光資源にも恵まれています。観光の目的は多様化しており、これらのニーズに対応し、恵まれた観光資源を有効に活用しながら多様な観光サービスを提供する必要があります。

これらのことから、天童温泉、観光拠点となっているわくわくランド、舞鶴山等を結び付ける散策道等の一体的整備が必要です。

<展開施策の方向>

- ◆天童温泉と一体となった観光拠点としての楸ノ町地区の整備を推進します。
- ◆天童温泉から楸ノ町を通り舞鶴山に至る散策ルートを整備します。
- ◆舞鶴山の多くの歴史的、文化的な景観資源を整備し、天童温泉からの徒歩による「半日コース」、「一日コース」等の観光コースを設定し、積極的にPRします。

2 JR天童駅から天童温泉までの散策ルートの整備

<現状と課題>

JR天童駅から温泉街までの道路には詰将棋や将棋駒を配した施設案内など、将棋駒のまちの雰囲気演出しており観光客に喜ばれています。

JR駅周辺には歴史的・文化的施設が多くありますが、そこに誘導するための表示板や散策を楽しませるための工夫が不足しており、JR天童駅から温泉街までの回遊性の創造が必要です。

<展開施策の方向>

- ◆JR天童駅から市美術館、広重美術館、将棋資料館、民芸館などを通り温泉街に至る散策ルートを整備します。
- ◆観光客が歩いてみたいくなるような倉津川の整備を促進します。
- ◆散策ルートを明確にし、観光施設等へ誘導するための案内板、歩道等を整備します。
- ◆散策ルート上に新たな観光資源を創出、演出します。

1 天童温泉から楸ノ町・舞鶴山までの一体的かつ総合的な整備



2 JR天童駅から天童温泉までの散策ルートの整備



3 旧国道沿いを羽州街道のイメージに演出

<現状と課題>

現在の市街地は、羽州街道の宿場町や市場町を中心に発展してきたもので、かつて松尾芭蕉やイザベラバードも通ったといわれる羽州街道は歴史的原点といえます。

駅前周辺の街並みは土地区画整理事業により明るく近代的になりました。羽州街道のイメージとして、街路樹ではあまり例のない黒松を植栽し、ガス灯を模した街路灯を設置しました。

今後、電線類の地中化等更なる演出を加え、羽州街道と宿場町のイメージアップが課題になっています。

未整備の区間を整備する場合は、羽州街道や宿場町の歴史的・文化的資源をいかした街並みづくりを演出することが重要です。

<展開施策の方向>

- ◆整備済みの区間については、電線類の地中化を進め羽州街道のイメージアップを演出します。
- ◆未整備区間については、歴史的文化的資源を保存活用しながら羽州街道のイメージを演出した整備を行います。
- ◆道路だけでなく、沿道の建築物や工作物等についても、蔵造りや歴史的雰囲気を残す建物の保存に努めるとともに、羽州街道の宿場町・市場町のイメージを取り入れた街並みづくりを推進します。

4 幹線道路沿いに特徴ある景観を演出

<現状と課題>

国道13号は、都市間交通のための幹線道路であり、山形方面から北上してくると、正面に舞鶴山の松の緑が映え、美しい景観を保っています。しかし、近年は、沿道サービス等の施設の立地が進み、建物の外壁の色彩や広告看板等によって景観を損ねるものができています。

市街地を通る主要地方道天童大江線については、運転しやすい道路環境とともに、歩行者にもやさしい歩道空間をつくる必要があります。東北中央自動車道天童インターチェンジへのアクセスにもなっており、今後、自動車交通量の増大が予想されるため、車社会へ対応した道路景観の創出が必要です。

また、通過車両の運転者に対し、本市を印象付けるためのサインが必要です。

<展開施策の方向>

- ◆本市への入口ゲートとなる部分に、本市独自のサインを設置することとします。
- ◆山形県屋外広告物条例を適用させながら沿道の広告板等を点検し、条例に違反して景観を阻害するものは除去し、今後の新設についてはその大きさ等を適切に指導します。
- ◆国道13号沿いのランドマークになる舞鶴山・八幡山の景観を保全するものとします。
- ◆主要地方道天童大江線については、車道の拡幅や歩道の整備を推進しながら、歩行者にやさしい空間を創出するものとします。

5 周辺環境にふさわしい建築物等の景観形成

<現状と課題>

街並みにとって最も重要な景観要素の一つである建築物や工作物は、多種多様多彩で、統一性や調和を失っています。市全体のまちづくりのイメージや、地区の特性に合った建築物の在り方を確立し、屋外広告物等の氾濫を防ぎ、周辺と調和した街並みをつくる必要があります。

<展開施策の方向>

- ◆街並みガイドライン等を策定し、建築物等のルールを定め、統一、調和の取れた街並みとなるよう指導及び誘導するものとします。
- ◆特に重要な地区については、地区計画制度等を積極的に導入し、指導するものとします。
- ◆山形県屋外広告物条例の趣旨に基づき、広告・看板等の大きさや形態等について制限・指導するものとします。

3 旧国道沿いを羽州街道のイメージに演出



4 幹線道路沿いに特徴ある景観を演出



5 周辺環境にふさわしい建築物等の景観形成



2 眺望景観の確保

1 主要視点場から月山への眺望を確保

<現状と課題>

本市から西方やや北寄りに望むことのできる月山の眺望は、本市の眺望景観の代表的なものです。

市内一円から月山を眺めることができます。視覚軸を考えた場合、国道13号から市街地に入ってきたときの道路延長線上及び県道天童河北線を西進したときの道路延長線上及び舞鶴山からの眺望は、重要な景観軸となっています。

<展開施策の方向>

- ◆月山が美しく見えるまちとして、その眺望を確保することとします。
- ◆眺望を阻害する要素となっているものを点検し、長期計画により除去することとします。
- ◆眺望を阻害することとなる建築物、工作物等の制限を図り、適切な指導を行います。

2 湯上山の眺望軸の確保

<現状と課題>

本市の玄関口である天童駅から天童温泉方面を眺めたときに、その背景にあるのが湯上山です。

市街地に最も近い山でありその形はほぼ三角形をしています。温泉街は、この山を借景として取り入れるなど、山並みとの一体的な景観づくりが課題となっています。

<展開施策の方向>

- ◆JR天童駅から見た湯上山の眺望を確保することとします。
- ◆眺望を阻害することとなる建築物、工作物等の制限を図り、適切な指導を行います。
- ◆湯上山の自然と緑を保全するよう努めます。

3 舞鶴山の眺望軸の確保

<現状と課題>

舞鶴山は、本市のシンボルであり、市内どこからでも見ることができ、方向性や距離感を与える重要なランドマークです。また、春の桜、夏の青葉そして秋の紅葉と四季折々に変化し、見る人々を楽しませてくれます。

<展開施策の方向>

- ◆道路軸の延長上に舞鶴山が位置する道路については、その眺望を確保するよう努めます。
- ◆眺望を阻害することとなる建築物、工作物等の制限を図り、適切な指導を行います。
- ◆舞鶴山の自然と緑を大切に、特に春の桜、秋の紅葉については、保全と育成に努めます。
- ◆舞鶴山に現存する景観上好ましくないものを除去し、また、今後も建築物や工作物の建造を制限することとします。

4 田園の景観の確保

<現状と課題>

本市は、乱川、押切川、立谷川の複合扇状地に位置するため、東側扇央部は畑、西側扇端部は水田として利用されています。春には奥羽山系の青々とした山々を背景に果樹が花開き、秋には月山、葉山を背景に稲穂が風になびき、黄金の絨毯を敷き詰められたような風景が見られるのは、盆地中央に位置する本市の大きな利点といえます。

しかし、農産物価格の低迷や農業従事者の高齢化などにより、一部に遊休農地がみられ、景観を損ねている箇所があります。

<展開施策の方向>

- ◆自然と田園を大切にする郷土愛を育成することにより、農地の保全に努めます。
- ◆農業・農村の持つ多面的な機能を認識し、国土の保全や水資源のかん養、良好な田園景観の保持に努めます。
- ◆農地を良好な状態で保全し、景観形成への有効利用を図るため、遊休農地の発生の防止と解消に努めます。
- ◆農用地を有効活用するため、果樹や季節の花々を一面に敷き詰めるなど、地域の観光資源と結び付けた田園景観の演出を行います。

1 主要視点場から月山への眺望を確保



2 湯上山の眺望軸の確保



3 舞鶴山の眺望軸の確保



4 田園の景観の確保



3 水と緑にあふれた街並みの創造

1 倉津川の親水空間を整備

<現状と課題>

市街地を流れる河川の代表である倉津川は、市民にとって最も身近な河川です。両側の緑地には花や木が植栽され、人々に潤いを与えてくれます。

今後は、ゆっくりと鑑賞する場所をつくるなどもっと親しみやすい川にする必要があります。

また、直線的な流れではなく、曲線を取り入れた面白さや、流れ込む水源を確保し、良好な水質を保つなどの改善をする必要があります。

<展開施策の方向>

- ◆中央公園と一体となった親水空間の整備を検討します。
- ◆三面張りの良否を検討し、有機的材料を用いた改修について検討します。
- ◆中洲の設置や植栽等、自然的な親しみの持てる川の流れをつくるものとします。
- ◆川面や緑地の花が観賞できる場所を確保し、ベンチ等休息施設の充実を図るものとします。
- ◆水質の改善策について検討するものとします。

2 出羽の三森を整備・保全

<現状と課題>

3つの山と2つの沼を擁する出羽の三森は、本市の最も代表的かつ重要なシンボルの一つです。舞鶴山は歴史的文化的景観要素も多く、65.3ヘクタール全体が都市公園として位置付けられており、観光、レクリエーション、憩いの拠点となっています。桜まつりを代表する「人間将棋」が行われる所でもあり、今後ともPRする必要があります。

また、舞鶴山は天童公園として整備が進められています。供用している部分は、まだ一部ですが、散策路等の整備も順次進められています。

八幡山北面の採石場跡地は植栽が進んでいますが、より一層緑を回復する必要があります。貫津沼周辺には人々の憩いの場が少なく、もっと自然景観をいかにする必要があります。

越王山は自然の活用という点から人の手が増えられておらず、舞鶴山、八幡山との一体的な保全・整備が必要です。

<展開施策の方向>

- ◆舞鶴山、八幡山、越王山、愛宕沼、貫津沼を一体とした総合整備計画を策定し、長期的かつ段階的に整備します。
- ◆景観阻害要素を点検し、除去するとともに、今後景観を阻害するおそれのあるものを制限することとします。
- ◆緑、水等の自然、歴史的・文化的史跡等の調和した景観を創出することとします。
- ◆貫津沼を活用し、眺望の場、憩いの場等の整備を検討します。
- ◆舞鶴山、八幡山、越王山について、それぞれ「観光、レクリエーションの森」、「憩いと体験の森」、「自然と生き物の森」といった明確な位置付けを行い、整備及び保全を行います。
- ◆出羽の三森を結ぶ散策路を整備することとし、市民が幅広く利用できるようにします。

3 街並みの緑化を推進

<現状と課題>

緑は人々に潤いと安らぎを与える重要な景観要素です。道路、公園などの公共施設は積極的に緑化を推進する必要があります。

また、私有地に対しても緑化を指導、推進することが必要です。

<展開施策の方向>

- ◆街路樹等は育成・点検をし、不備なものについては補充等の整備を行います。
- ◆公共施設は積極的に緑化を推進します。
- ◆生け垣補助制度を更に推進し、住宅地の緑化を誘導します。
- ◆要所にポケットパーク等を設置し、安らぎを与える場所をつくることとします。

4 保存樹を指定し保存

<現状と課題>

市内には市指定文化財となっている樹木のほか、大樹や古樹などが点在しており、鎮守の杜など、その地区のシンボルとなっているものは、今後とも保存する必要があります。

<展開施策の方向>

- ◆地区のシンボルとなっている樹木や樹木群を抽出することとします。
- ◆保存樹又は保存林として指定し、樹木の良好な保育と管理を推進します。
- ◆必要に応じて、樹木の周辺を併せて整備し、ポケットパークとして演出します。

1 倉津川の親水空間を整備



2 出羽の三森を整備・保全



3 街並みの緑化を推進



4 保存樹を指定し保存



5 原崎沼の保全

<現状と課題>

全体的に周囲は山や林に囲まれ自然景観が残されています。水と緑が一体となった空間は貴重で、憩いの場として今後とも保全の必要があります。

また、原崎沼は鴨の生息地として知られており、鴨猟の網を張るため枝を払ったといわれている松が点在しています。

沼は現在、へらぶな釣りの愛好者に利用されていますが、広く市民の憩いの場として利活用するための整備が必要です。

<展開施策の方向>

- ◆市民の憩いの場としての整備を進めます。
- ◆案内サインを整備し、広くPRを行います。

6 天童高原の自然景観の保全

<現状と課題>

天童高原は、キャンプ場、放牧場、ロッジの管理棟で構成されており、春の山菜、夏のキャンプ、秋の紅葉、冬のスキーと四季を通して高原の魅力を満喫できます。また、面白山の登山口にもなっており市内はもとより宮城県からのハイカーも多く訪れています。

ウォーキングセンターや遊歩道が整備されましたが、市民、観光客がもっと自然に親しみレクリエーションや憩いの場として利活用できる整備が必要です。

<展開施策の方向>

- ◆草原や樹林からなる緑豊かな高原の景観を保全します。
- ◆家族連れを対象にした自然にふれあう体験の場を創出することとします。
- ◆自然に合った樹木の植栽を行い、山林景観の魅力づくりを進めます。
- ◆スキーシーズンだけでなく、四季を通じたPRを行います。

5 原崎沼の保全



6 天童高原の自然景観の保全



4 歴史的集落景観の演出

1 高揃と蔵増地区は「城下町」として演出・保全

<現状と課題>

高揃と蔵増は、城下町としての面影を顕著に残している集落です。城下町特有の形状をした道路網が残っており、道路整備については利便性ばかりでなく歴史的、文化的に貴重な集落景観との調和が必要です。高揃の各所に数多く残っている板塀は、歴史的集落を演出するためには重要な景観要素で、これを保全することが必要です。また、蔵増にある堀跡は保全に努め、より効果的に演出することが必要です。

集落全体が歴史的観光資源になり得ることを認識する必要があります。

<展開施策の方向>

- ◆ 居住者に対し、集落の歴史的文化的重要性を啓発することとします。
- ◆ 基本的には現在の道路を残すこととし、拡幅整備を行う場合は、構造や材料に考慮して城下町らしさの演出を行います。
- ◆ 堀跡を調査しながら、見せるための演出を行います。
- ◆ 城下町特有の景観の保全に努めます。
- ◆ 板塀の保全又は設置を推進します。
- ◆ 歴史的街並みを保全・形成するため、建築物や工作物等のデザインを統一するためのガイドラインを策定し、指導、誘導することとします。

2 寺津地区は「船場町」として演出・回復

<現状と課題>

寺津は、江戸時代以降最上川舟運の重要な船着場として栄えましたが、交通手段の変化とともに、現在その面影を見ることはできません。船着場であった旧須川の三日月湖は、近年まで当時の面影をとどめていましたが、現在は水郷寺津沼公園として整備されています。船着場として繁栄した当時の様子は水郷寺津資料館で見ることができます。

また、県内有数の船着場であったことや白鳥の飛来地などを観光資源として、地区の活性化に結び付けることが必要です。

<展開施策の方向>

- ◆ 船着場であった旧須川の面影を復元することとします。
- ◆ 船着場であった旧須川周辺やそこに至る道路等を整備します。
- ◆ 観光資源としての活用を検討し、市内外にPRしていきます。

1 高揃と蔵増の城下町としての景観を保全



2 寺津の船着場としての景観を回復



3 若松地区の景観は「若松寺の門前町」として演出・保全

<現状と課題>

最上三十三観音の第1番札所である若松寺の門前町であった若松街道沿いは、大樹並木や板塀・古い家屋が多く残っており、歴史を感じさせる街並みは今なお荘厳な雰囲気を残しています。若松寺に至る道路の一部が狭く車の通行に支障を来しています。

<展開施策の方向>

- ◆現在の道路形状を保全し、交通緩和には別ルートの新設道路で検討します。
- ◆大樹並木は保存樹として今後とも保存することとします。
- ◆板塀の保全又は設置を推進します。
- ◆昔の参道を復元、整備し、歩いて巡礼できるようにすることとします。

4 その他の地域は、その集落の持つ地域文化をいかした景観を演出・保全

<現状と課題>

田園集落には寺社、望火楼、石垣、鎮守の森、湧水、眺望景観など数えきれない歴史的自然的景観が存在しています。それは長い時間をかけて固有の地域文化で築き上げてきたものです。

まち全体の調和を図りながら地域独自の景観を維持、演出し、地域の文化を大切に保全しなければなりません。そのためにガイドラインを策定し、指導・誘導する必要があります。

<展開施策の方向>

- ◆地域の歴史的自然的景観を大切にしよう啓発を行います。
- ◆地域の特性をいかした景観にするため、地域ごとに建築物や工作物等のデザインを統一するためのガイドラインを策定し、指導、誘導することとします。

3 若松寺の門前町としての景観を保全



4 地域文化が生きる田園集落の景観の保全



5 歴史的文化的景観のネットワークの確立

1 観光ルートの整備

<現状と課題>

市内に散在する景観拠点は観光拠点としても貴重な資源ですが、現在、点として存在している状況です。各拠点を結び付け、線（ルート）として整備する必要があります。

<展開施策の方向>

- ◆地区別要素、目的別要素及び市全体の代表的要素を整理することとします。
- ◆地域ごと、目的ごとのルートを設定することとします。
- ◆交通手段に合わせた、各ルートについての整備を行うこととします。

2 分かりやすい案内サイン及び説明表示サインの整備

<現状と課題>

ルートに応じた観光客を誘導するため、だれでも理解できる手段を講じる必要があります。また、魅力を伝える案内サインを設置し、各ルートをPRする必要があります。

<展開施策の方向>

- ◆観光ルートマップを作製し、PRを行います。
- ◆ルート上に案内板等誘導標識を整備することとします。
- ◆ルートを活用した行事を検討しながら、意識の高揚を図ることとします。

3 歩いて楽しい歴史的文化的景観ゾーンの整備

<現状と課題>

重要な観光施設や史跡があっても、駐車場や道路事情が悪く、訪れにくいところがあります。特に来訪者がバスで訪れることができないところがあります。

<展開施策の方向>

- ◆歩いて楽しい雰囲気をつくるとともに、駐車場の共同化を図るなど、受入れ態勢を整備、強化します。
- ◆歴史的街並みや文化的雰囲気を阻害しない道路整備を行うこととします。

1 観光ルートの整備



2 分かりやすい案内サイン及び説明表示サインの整備



3 歩いて楽しい歴史的文化的景観ゾーンの整備

